

東海道駿河以東：11 風祭一小田原本町一酒匂一國府津

小田原城

鎌倉時代、土肥一族の拠点として、小田原氏が居住。1400年ごろ大森頼春が築城。明応4年(1495)伊豆韮山城にいた伊勢新九郎長氏が奪取。5代後北条氏95年間の基礎を築く。北条氏の仁政により諸国から職人、商人が城下は繁栄した。永禄4年(1561)に上杉謙信、永禄12年(1569)武田信玄が攻めたが落城しなかった。天正18年(1590)豊田秀吉の15万の軍勢に落城する。大久保忠世、忠隣が城主となるが忠隣が改易され、阿部氏、稲葉氏が城主となる。貞享3年(1686)再び大久保氏が城主となり11万3千石の居城として明治の藩籍奉還まで続いた。城は関東への入口として重要な拠点であった。

大久寺 (日蓮宗)

小田原城主、大久保一族の墓。遠州二俣城の城主であった大久保忠世が、家康が江戸に移った機会に城主になる。その時二俣から日英上人を招き大久寺を開山した。2代忠隣の時改易されるが忠朝の時に小田原城に戻される。本堂裏手に一族の墓がある。忠世と忠隣の墓が日蓮宗独特の合掌型宝塔で珍しい。



合掌型宝篋印塔

板橋の地藏尊

永禄12年(1569)香林寺九世文察和尚が身丈一丈坐像を造り、湯本の古堂にあった弘法大師彫造の仏を胎内に納めたといわれる。この地方では新しい仏ができた時に家族縁者が縁日に3年間参詣すると故人に似た人に会えるという。境内には一刀流6代目横田常右衛門と7代目名坂四郎治宣供養碑がある。



小田原宿

箱根から4里8町 名物 梅漬 ちようちん 本陣4、脇本陣4、旅籠94。東西町並み18町30間余 小田原の地名由来は原野に小田を開墾したこととか。関東への入口として、箱根越え、関所を控えて宿は賑わい 宿規模は大きかった。大名は主に三島が小田原に泊まる。

北条氏政・氏照の墓

氏政は後北条氏4代の小田原城主。氏照は氏政の弟で八王子城主。二人は5代城主氏直の責任をとられ自決を命じられる。首は京都に送られたが遺骸はこの地の伝心庵に葬られたが荒廃したので稲葉氏が整備。氏直は高野山に追放される。



さかわ 酒匂川

古くは 逆川、円子川 と呼ばれていた。大井川と共に、架橋、渡船禁止で徒歩渡り。(冬は仮橋が許可された)



[弥次・喜多]

“梅漬の名物とてやとめおんな
くちをすくして旅人をよぶ”
いろいろを餅かと思って買う。
“いろいろを餅かとうまくだまされて
こは葉じゃと苦いかほする”

宿で五右エ門風呂騒動。
弥次さん浮いている底板を蓋と思い取って入り大火傷。近くにあった下駄を履いてはいるが下駄を隠して上がる。北さんあわてて入りアツ~~~~。下駄を見つけて入るが風呂の栓を抜いてしまい罰金。
“水風呂の釜をぬきたる科ゆへに
やど屋亭主辰をよこした”

[弥次・喜多]

“われわれはふたり川越ふたりにて
酒匂のかはにめてよふたり”

酒匂宿 (鎌倉時代)

文治元年(1185)5月壇ノ浦戦いに勝利した義経一行は酒匂宿に到着。明日鎌倉入り旨の使者堀弥太郎景光を頼朝に送ったところ北条時政を使いとして、平宗盛親子は受取ったが義経は鎌倉に入るな酒匂宿に逗留せよとの命令。義経は鎌倉の腰越まで行き嘆願書(腰越状)を書くが、面会許されず、やむなく帰京。



新田義貞の首塚

義貞は北陸で転戦中、延元3年(1338)越前国藤島で討死。足利尊氏によって晒首になっていたのを義貞の家臣宇都宮泰藤が首を奪い、義貞の故郷上野国に葬るべく、三河の妻子に別れを告げ東海道を下って、ここ酒匂川の綱一色村まで来た時病に罹り再起できなくなったのでこの地に首を埋め、自らも没した。

